

2024_0121「富士山の笠雲（動画）」日々の理科 3454号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

周囲に目だつた山のない際立った独立峰には、よく「笠雲」がかかります。浅間山にも時々笠雲がかかりますが、やはり有名なのは富士山の笠雲でしょう。5年生の理科の教科書にも天気俚諺（ことわざ）の一つとして「富士山に笠雲がかかると雨」というのが載っています。確かに富士山の笠雲は、上層大気が不安定な時に現れることが多く、天気は下り坂になる傾向にあります。しかし正確には「富士山にどんな形の笠雲がかかるとどんな天気変化になるか」が重要なのです。

先日、出張先の北区立西浮間小学校から、笠雲がかかった富士山がよく見えました。私は理科室のベランダにカメラを設置して、その動きを撮影してみました。ある一瞬の笠雲はほとんど静止しているようにしか見えません。しかし動画で撮影して早回しで見ると、激しく変化していることがわかります。画面右側（富士山の北西側）から左側（南東側）に向かって風が吹き、笠雲も山頂右側で形成され、左側で消えるという繰り返しの動きです。この日の笠雲は「二段傘」でしたが、時々「三段傘」になる瞬間も見られました。途中でスズメの群れも登場します。

西浮間小学校から富士山火口壁までは、直線距離でちょうど 100km です。こんなに遠い山の笠雲の変化を、ごく普通のコンデジ（コンパクトデジカメ）で観察できるのはすばらしいことです。

(2024年1月中旬／北区西浮間小学校より／約60倍速)

